

● 地域提案型

平成19年度 採択内定案件

I. 提案事業の概要	
1. 国名	タイ
2. 事業名	文化財の保存と地域の活性化
3. 事業の背景と必要性	<p>途上国の文化財は自然劣化に加え、不適切な保存環境により憂慮すべき事態にある。また、近年自然災害等による遺跡、遺物の崩壊、滅失等に見舞われているが、スコータイ、アユタヤなど豊富な仏教遺跡、美術を誇るタイでも同じような実情から免れない。併せて、文化財の保存・活用の中核となる博物館においても、保存環境の整備が十分といえず、文化財を活用しての地域づくりや教育普及の取り組みは進展していない。</p> <p>一方、九州国立博物館では、文化財保存修復に係る最新設備を有するほか、文化遺産をまちづくりに積極的に活用している太宰府市に所在する博物館として、「文化を活用した地域づくり」の具体的かつ最先端の取り組みを紹介する基盤を備えており、館を共同運営する独立行政法人文化財機構九州国立博物館と福岡県（福岡県立アジア文化交流センター）は、九州国立博物館国際交流事業実行委員会を設置して、交流事業に対応する体制を整備している。</p> <p>平成18年2月に福岡県とバンコク都との間で友好提携が締結され、それを契機に、バンコク都知事などタイ側から文化財の保存修復や地域づくりへの利活用に係る協力要請がなされた。そこで上記委員会を中核として、具体的には、タイへの専門家派遣によるセミナーの実施及びタイの文化財関係者の本邦への招聘・研修等について積極的に対応することとした。</p>
4. 事業の目的	日泰間で文化財の保存修復と地域活性化へ向けての利活用に係る研修員受入及び専門家派遣の活動を行うことにより、文化財の保存活用の中核となる博物館の整備や研究員の博物館運営・文化財保存・教育普及等の意識向上を図る。
5. 対象地域	バンコク
6. 受益者層	バンコク国立博物館関係者および地域住民
7. 活動及び期待される成果	<p>【成果】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 文化財の管理及び危機管理に関する基本的な手法を修得する。 2. 文化財の保存修復に関する基礎的な技術・技法について理解する。 3. 博物館の効率的効果的運営方法を修得する。 4. 文化財の地域振興への活用方策について日本の経験を理解する。 5. 博物館及び文化遺産サイトにおける教育普及活動のノウハウを理解する。 6. 文化財や文化遺産を地域振興の資源とする気運が高まる。 7. 日泰の博物館連携協力のネットワークが構築される。 <p>【活動（専門家派遣・研修員受入）】</p> <p>わが国からの専門家の派遣によるセミナーと、研修生の本邦への受入研修を2年間実施する。その結果、博物館運営の改善、文化財保存や環境整備への意識向上、教育普及活動の取り組み、文化財を活用したまちづくり、その他多様な事業について具体的事例を学ぶ。</p> <p>研修で学んだ事例や経験をタイでいかに活用するかについては、帰国前にアクションプランとしてとりまとめることにより、具体的な行動計画として示す。</p> <p>帰国後の研修生については、タイ独自の文化を大切に継承し活用するリーダーとして、文化財の保存、文化の普及（教育普及）、文化財の活用等についてアクションプランに基づき行動することが求められる。また、それに伴いタイの博物館が、文化財を保存活用し文化を普及する中核施設としての拠点となり、文化による市民生活向上への基礎をつくる。</p> <p>2カ年の計画が終了した際には、バンコクまたは日本においてセミナーを開催し、20年度～21年度までの成果について情報を交換、発信する機会を設ける予定。</p>
8. 実施期間	平成20年度～平成21年度
9. 事業の実施体制	九州国立博物館国際交流事業実行委員会が調整機関となり、福岡県アジア文化交流センター及び独立行政法人文化財機構九州国立博物館と協力し、専門家派遣および研修員受入を実施する。
II. 応募団体の概要	
1. 団体名（提案自治体）	九州国立博物館国際交流事業実行委員会（福岡県）
2. 対象国との関係、協力実績	平成19年度草の根技術協力事業（地域提案型）の実施、研究院（学芸員）の交流、国際シンポジウムの招へい、九州国立博物館の招へい、九州国立博物館職員のパンコク派遣